



一貫コース通信

『一年の計は元旦に在り』

あけましておめでとうございます。

新春を迎えましたが、本年も大きな災害(やん災)にみまわれる事無く、また、世界平和を祈りつつも、生徒諸君に取って大きなおおきな実りある年に成ります様心から祈念します。

我が国には『一年の計は元旦にあり』と言う文化があります。この事は、年が改まる節目の時に決意を持つ大切さを教えています。ヒトの才能や能力差など一般社会が思っている程大きくはありません。人事は、決意と努力の差が必ず結果として現れます。世間はこれを、単に結果≒才能と誤って言っているに過ぎません。これは大きな間違いです。そもそも生まれながら、既に能力が決定されて居る説など、これまでに接した事は在りません。敢えて繰り返しますが、決意と計画、そして実行(努力)こそが結果を生むのです。これは、ヒトが^{こたわ}拘る物事一般の理(ことわり)と言って良いでしょう。生徒諸君も、令和5年に“夢と希望”を叶える(…に近づく)為、大きな目標と計画を立て必ず実行して下さい。

昨年末にはコロナ禍の中、サッカーのワールドカップが開催されました。世界的なイベントをTV中継で見た諸君も多かったと思います。多くの選手の活躍を目の当たりにし、大きな感動を貰ったに違いありません。国や置かれている状況の差は在れ、どの選手にも言葉に表せない努力が在った事は想像に^{かな}難くありません。又、その努力と葛藤^{かっとう}との格闘の日々の一端も理解出来た筈です。サッカーのプレイと合わせ、ウクライナとロシアの戦争に対する厳しい世論や、ジェンダーと言う社会が抱える問題にも改めて考えさせられた大会でした。実の所、自分の事だけではなく、この現実の中に私達の日常が在る事を自覚して下さい。

思うに、私達は毎日の生活の中で様々な事を学んでいます。しかし、同時に志向や好みで無意識のうちに対象を取捨選択して居るのです。これをローマ帝国の皇帝ユリウス・カエサルは“人間ならば、誰にでも現実のすべてが見えている訳ではない。多くの人は、見たいと欲する現実しか見ていない。”と指摘しています。どうか、自分の力を大きく開花させる為にも、感性を研ぎ澄まし、広く様々な事柄に興味関心を持って貰いたいものです。



“かえる事のできるものについて、それをかえるだけの勇気をわれらに与えたまえ。

かえる事のできないものについては、それを受け入れるだけの冷静さを与えたまえ。

かえる事のできるものと、かえることのできないモノを、識別する叡智を与えたまえ。”

— ラインフォールド・ニーバー —